

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

1月中旬の降雨は、大量の雨の勢いに温暖化の影響なのかと驚かされた。降雨は農作の兆しと農業関係者にうれしい便りでもあり、

縄の結び目が水にぬれると、ほどけにくくなるように夫婦の絆も雨によって固くなり、離れることはないというフランスのことわざで「雨の日の結婚式は幸せな結婚をもたらす」と言われるが、積雪の少ない現状には降雨には不安が募るばかりだ。

フライデー・デジタールが、災害現場に向かう自衛隊員が持参する装備品のモロさを「靴の中はすっくとべちゃぐちゃ」との記事で配信した。標準装備の靴は、長時間歩く場合は疲れにくい仕様だが、被災地での安全性や効率性を考え、災害現場の靴は自腹で買っているとの情報もある。自衛隊の装備品の充実を願うばかりだ。

大阪電気通信大学電気電子工学科の濱田准教授の「破損した太陽光発電は充電部が露出し、漏電することがあ

り、そのような状態で太陽光パネルや漏電部分に触れると感電事故の原因になる」との呼び掛けが気になる。パネルは風で飛ばすが、水没しようが発電が可能なうえ、太陽の光だけでなく、火事など炎

「燃やすし かないゴミ」埋め立てるしかないゴミ」と改名する自治体が増加している。また長野県上田市や須坂市では、生ごみを堆肥化するなど自家処理する場合、生ごみ以外の可燃物が無料になる「生ごみ出しません袋」を配布。生ごみを

減らすことによるメリットを伝え、ごみ処理に使う税金が減る事で、自分たちにも恩恵が及ぶゴミ行政に取り組んでいる。私たちの地域も従前どおりのゴミ行政論議でない取り組みを期待したい。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

日々変化する事態に 注視する事を心掛けよう



駐車場不足が指摘される白馬郵便局。国際的観光地での収益性のある施設充実の声が強くなっている